



### 海外自治体の現場を学ぶ ～クレアシドニー事務所 インターンシップ研修～

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 菅原 亨 (宮城県栗原市派遣)、  
成田 静香 (和歌山県派遣)、藤島 穰 (青森県派遣)、  
渡邊 雄太 (総務省派遣)、佐々木 悠介 (東京都派遣)

シドニー事務所では、所長補佐の職員研修の一環として、1週間から10日間程度、オーストラリアまたはニュージーランドの地方自治体などにおいて仕事を体験するインターンシップ研修を行っています。

本研修は、事務所業務を通じて知り合った当地の地方自治体などの関係者に対して、自ら依頼し、インターンシップ先の市役所などに赴き、現地の職員に囲まれながら仕事を行う、いわば武者修行のような研修です。現地の事情や課題を肌身に感じながら、日々の仕事の進め方や意思決定の方法などを直接学ぶことを目的としており、また、研修終了後については日本への帰任後まで続く人的ネットワークを得ることも期待されます。

2018年度は、4名の所長補佐がオーストラリア国内でインターンシップ研修を行いましたので、その様子をレポートします。

#### 藤島所長補佐の体験談

8月21日から27日にかけて、ニュー・サウス・

ウェールズ州コフスハーバー市を訪問しました。当地では、Industry and Destination Development (以下、I & DD) の職員に同行し、起業支援施策や観光施策を中心に研修に従事しました。ここでは、起業支援事業について紹介いたします。

I & DD では起業支援や事業連携の促進を目的とする6 degrees という事業を展開しています。当地では仕事を探すことが難しく、自分で仕事を作る(起業する)ことが必要であるとする人も多いとの同市在住者の話を伺い、地域の需要に合った事業であると感じました。6 degrees では、コワーキングスペースを運営するとともに、起業に必要なノウハウを学ぶ講座を開設し、さらには、6 degrees への登録者が自らの考えを発表し、意見交換を行う場を設けています。発表は5分間で、弁護士や会計士などの専門家に対して行われ、事業効果や熱意を伝えるスキルの向上を図るとともに、専門家から事業計画に対するアドバイスをすることができます。なお、市では、この発表会に協力する専門家に対しての



研修受入先であるI & DDの職員と



同市商工会議所主催の展示会で6 degreesをPRするI & DDスタッフ

謝礼は支払っていません。その理由は、発表者は地域の住民であり、起業した際には顧客となることが想定でき、お互いにメリットがあるから、というものでした。さらに、この発表会は参加者同士や別の企業との協働のきっかけとなることも期待しているのもであると、担当者から説明を受けました。

2018年、同市は長崎県佐世保市との姉妹都市提携30周年を迎え、インターン期間中に佐世保市との交流事業にも参加させていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

## 成田所長補佐の体験談

9月9日から15日にかけて、タスマニア州ミエンダー・バレー市を訪問しました。

同市は、タスマニア州北部に位置し、肥沃な土壌と豊かな水に恵まれた農業が盛んな地域です。また、世界遺産であるタスマニア原生地域に囲まれており、名勝として名高いクレイドルマウンテンへの玄関口として観光業にも力を入れています。派遣元の和歌山県も、果樹栽培をはじめとして農業が盛んで、また、世界遺産である紀伊山地の霊場と参詣道を擁する自然豊かな地域です。こうした共通点を踏まえ、訪問期間中は同市における農業および観光の振興に向けた取り組みを学びました。

同市では家族経営の小規模事業者が多く、事業者に大幅な値引きを求める大手スーパーとの取引は追求せず、マーケットへの出店やオンライン販売などにより、直接消費者に販売して収益を確保する努力をしています。農家の中には観光業に取り組んでいる方もいます。同市では土地利用に関してゾーニングを採用して農地をほかの



アトランティックサーモンの陸上養殖に取り組む事業者



2017年に完成したKooparooona Niara Cultural Trail。本土とは異なるタスマニア州のアボリジニの歴史や文化を学べる。

用途に変更することを制限していますが、観光振興のために農地に宿泊施設を設置することを許可するなど、柔軟に対応しています。市職員とともに農場などを訪問した際、どの事業者も今後の事業展開について市職員に熱心に相談しており、官民協働で地域産業の振興に取り組んでいることを実感しました。

## 菅原所長補佐の体験談

11月12日から16日にかけて、ニュー・サウス・ウェールズ州ウーロンゴン市を訪問しました。

同市はシドニー市の南約80kmに位置し、人口は約21万人、都市圏人口は約30万人と、NSW州第3位の規模を有し、豪州有数の重工業都市です。1930年代から鉄鋼業とコークスの生産、小麦の積出港として栄え、現在も鉄鋼業が主要産業ですが、そのほかの産業の育成、特に教育と観光に力を入れています。鉄鋼業に従事するため南欧と東欧から移民が押し寄せ、多文化共生が早い



ウーロンゴン中心市街地を一望できる展望台にて





お世話になった市役所職員の皆さん

段階で確立した多文化の先進地です。

滞在中、市役所各部署の担当者から、同市の各種行政サービスと政策などについてお話を伺い、特に多文化主義政策と観光戦略について学び、意見交換を行いました。観光資源を生かし新興国からの誘客に取り組む観光のグローバル戦略、多文化共生の長い歴史から多様性こそが街を繁栄させる原動力であると認識し、コミュニティ組織と連携してサービス向上と多様性に富むコミュニティづくりを推進する取り組みなどを興味深く学びました。また、職員研修やイベントの準備にも携わり、市長との協議にも同席する機会に恵まれ、豪州の地方自治体の役割や責任を多方面から学び、また、働き方も含めた文化の違いを肌で感じることができました。

今回、同市と川崎市の素晴らしい姉妹都市関係のご縁をきっかけとして、インターンを受け入れていただきました。市長をはじめ研修中に関わった職員は、みな明るく大らかで、心温まる対応をしてくださり、感激しました。

## 渡邊所長補佐の体験談

11月14日から19日にかけて、ビクトリア州サーフコースト市を訪問しました。

同市は、人口3万人ほどの自治体ですが、大都市であるメルボルンからも近く、毎年、美しい海や砂浜を求めて、多くの観光客が訪問しています。QuiksilverやRip Curlといった有名サーフブランドの発祥の地として、世界大会が開催されるほどサーフィンが盛んであり、中心地区であるトーキーは、オーストラリアの国家遺産であるグレート・オーシャン・ロードの起点の街です。

今回の訪問では、小規模自治体の地域活性化をテーマ



CEOのKeith Baillie氏と

に、市幹部の方々からお話を伺うことができました。

同市は、都市部から近い立地と、豊富な観光資源を大きな魅力として、多くの観光客や移住者を惹きつけています。そのため、人口流入と観光客の増加に対応するインフラ整備が、更なる地域活性化に向けた課題とされています。その中で興味深いのが、スポーツ施設の充実が今後の大きな課題とされていたことです。

オーストラリアでは、スポーツに対する関心が非常に高く、競技への参加だけでなく、地元チームの熱烈なサポーターとして、多くの方がスポーツに関わっています。地域におけるスポーツ環境の充実、住民の帰属意識を高め、定住を促し、またそこに魅力を感じた移住者を集める効果があるとのことでした。

地区によっては、高齢化など、日本の自治体と同じ課題も存在しますが、オーストラリアならではの地域活性化の施策を学ぶ貴重な体験となりました。



トーキーにあるAustralian National Surfing Museum